慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ダニエル・ベル教授の返答
Sub Title	
Author	Bell, Daniel
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1995
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.41 (1995.) ,p.8- 9
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	記念講演
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069957X-00000041-0008

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ダニエル・ベル教授の返答

まず最初に一言申しあげたいのですけれども，ものを書く者としては真剣にとらえてくださること以上にうれしいものはありません。富永先生には，私の理論をきちんと読んでいただいて，それに対してコメントをしていただいたことに対し，お礼を申しあげたいと思います。私は長年にわたり富永先生に敬意を表してきましたけれども，それを実証するものです。

先ほどおっしゃっていたチューリッヒにご招待したというのは，おっしゃったように先生と面識があったからではなく，ずっと作品を読ませていただいて尊敬していたからであります。

次の点に関して先生がおっしゃったことは正しいと思います。日本において社会学理論には2つの考え方がある。1つは西欧化と言っていいのでしょうか。それは富永先生がおっしゃったような科学的な見方すなわち，普遍的見方，そして今一つは公文俊平先生，村上泰亮先生，佐藤武三郎先生が提唱された「イエ」の考え方です。日本の特殊性を私が重視したということは，ある程度までは「イエ」の理論に基づいているかもしれません。しかしながら完全に同じであるとは言えません。公文，村上，佐藤先生の統合理論，そして富永先生の実証理論と私の理論はちょっと違います。それは脱マルクス主義と言ってもいいと思いますが。マルクス主義，そしてウェーバーの理論の最もよいところを社会学のなかに取り入れたものです。

簡単に申しあげたいのですが，「イエ」の理論は，ライシャワーやロバート・ベラーなどの学者をたいへん引きつけたものがあるのですけれども，非常に重要な点で失敗しているところがあります。それは政治，権力を含んでいないことです。私は，家の理論によって日本のファシズム，軍国主義を説明することはできませんでした。また日本の対外政策を説明することもできませんでした。1890年から1940年にかけて，日本は4回も戦争を行っているのです。それは韓国，中国，ロシア，米国に対してです。

このように，家の理論に見られる内部を統合するという考え方は強みはあるんですけれども，日本の対外の政治を説明できないという点では，不十分な理論です。これが私の「イエ」理論に対して感じることです。

村上先生は日本のファシズムについて書いていらっしゃいますけれども，そちらのほうが魅力があると思います。

もう一点，富永先生のご質問に関してですが，私は経済，政治，文化の領域が現実においてまったく完全に独立していると考えているわけではありません。これらは社会の側面を描写しているわけではありません。分析をするツールです。概念的図式なのです。それによって歴史的な状況の矛盾や断絶を見ることができるのです。この3つが完全に独立しているものであると考えていません。自立していることはあります。これは独立とは違います。つまりリードすることができるか否かです。

時代によっては，これらの3つの要素のどれかが出てきています。たとえばヨーロッパのカトリックでは，文化が支配していましたし，日本の明治時代においては政治が支配していました。これは西洋の方法によって日本の近代化を指導しようとしていたわけです。

そして現在の日本においては経済が支配しています。私の図式は描写する為のものではなく，さまざまな断絶，矛盾を分析するツールであるのです。

私の発表の最後のほうで，申しあげようとしたのは，政治，経済の間の緊張，そして文化と原理主義的宗教の間の緊張という現代の傾向を見せようとしたわけです。これらの変動要因を分けて，より分析的なかたちで見たいと思ったのです。

最後に，あまり詳しく申しあげる時間はありませんけれども，近代化の問題について申しあげたいと思います。昨日，サントリー財団のワークショップでペーパーを発表しました。そちらでは近代化について3つのワークグループがありました。

近代化というのは制度に与えられるものです。社会のある要素をほかの方向にもたらそうとするものです。しかし近代化と近代性とは違います。近代性は精神を表すもので，さかのぼるものです。近代性の起源は，ギリシャ思想，ローマ思想，そしてルネッサンス時代などにさかのぼることができます。

近代性とは都市性です。都市化，ヒューマニズム，許容性，新たな考え方を取り入れるということ，そして探究的であることをさしています。しかし近代性は近代化と独立していることがあります。日本の歴史を見ますと，近代化が明治時代とそれ以降に起きています。しかしながら近代性というものは起きていません。

日本の1920年代，30年代を見ますと，政治的な抑圧

がありました。過激派や，共産主義の人たちが自白を強要されました。軍事，技術，経済構造においては近代化は起きましたけれども，政治の面では近代化は起きていませんし，近代性は起きていません。私は政治，経済，文化の間のこのような断絶を見ようとしたわけです。

もちろん富永先生がおっしゃった理論には敬意を表します。私もそういうものを使わせていただくことはあります。しかし最終的にはこのような断絶を見るほうが，よりよい考え方ではないかと思います。個人的な意見ではありますけれども。